Leader Study リーダー学

広く意見を聞く

■智者千慮必有一失。愚者千慮必有一得（淮陰侯列伝）

智者も千慮に必ず一失あり。
愚者も千慮に必ず一得あり

［訳］智者の考えにも、千に一つは間違いがある。愚者の考えにも、千に一つはよい思いつきがある。

前二〇五年、井陘の戦いで趙は漢に敗れた。そのとき漢の大将軍・韓信は、趙の軍師・李左車を捕虜とし、今後、漢がとるべき戦術を尋ねる。李左車は「敗軍の将には武を語る資格がありません」と固辞した。

だが、韓信は「あなたの言に従いますから、ぜひ、燕と斉を討つ策をお授けください」と、重ねて教えを請う。やむなく李左車は、韓信に語り始めた。その冒頭の文言が、ここに紹介した名言である。

「智者にも千に一つの間違いがあり、愚者にも千に一つはよい考えがあるそうです。それゆえ、聖人は愚人の言葉も無視しないといいます。私の計略がお役に立つかどうかわかりませんが、愚者なりの考えを申し上げます」

李左車は、あくまでも愚者の策であると前置きし、次のように述べた。

「将軍の兵は今、疲れ果てています。今は兵を休ませるべきで、急いで攻撃に移るのは間違いです。その間、趙の旧将兵に施しを行って懐柔し、彼らに燕を攻撃させるのです。頃合を見て降伏を勧めれば、韓信将軍の威名を恐れ、服従するでしょう。燕が落ちたのち、斉にも同様にあたります」

韓信はこの進言に従い、燕を服従させるのに成功した。李左車の計略はまさに的を射たものだった。韓信はその後、垓下の戦いで劉邦が項羽を破り、楚漢戦争が終結するまで、戦い抜いた。だが、韓信に進言したのちの李左車は、消息が不明である。

なお、この名言は、文言を縮めて、「千慮の一失」という成句で用いられることも多い。「愚者にも一得」という類語もある。

アイデアは広く募るべし

教訓

思い込みで人の意見を判断してはならない。常に平等に耳を傾け、広く意見を集めることが大事である。

ビジネスヒント

何かを決断しようとするとき、意見を述べた者の能力の優劣、あるいは立場の強弱で、採用する意見を決めてしまっているようなことはないか。そのようなことで採用の可否を決めていては、隠れたよいアイデアをみすみす逃してしまうことになりかねない。

大切なのは、決断を下すときは頭を白紙に戻して、多くの人たちの意見に平等に耳を傾けることだ。

仕事ができる優秀な上司の意見だからといって、必ずしも正しいというわけではない。入社したばかりの新入社員の意見だからといって、いつも見当違いとは限らない。知りすぎているから見えなくなっているもの、知らないからよく見えるものもあるはずだ。

思い込みや偏見が入ると、正しい判断は下せなくなる。決定権が自分にあるとしても、千に一つの間違い、千に一つのよい思いつきがあることを忘れず、常に広く周囲からの意見を募ることを心がけたい。